

被災者支援ボランティアを考えている方に向けたセミナー

《被災者支援のボランティアのための知識とセルフケア》

このセミナーでは、被災者と接するときの心構えや被災者に対するケアの知識、そしてボランティア自身のためのセルフケアについて、セミナーとワークショップで学ぶことができます。被災者支援ボランティアを考えている方であれば、どなたでも受講できます。

●日 時：7月15日(金) 19:00～21:30

●場 所：IFF (アイエフエフ) 教育センター

〒106-0044 東京都港区東麻布 3-7-3

東麻布久永ビル 2階

都営地下鉄大江戸線、東京メトロ南北線

「麻布十番駅」6番出口徒歩2分

●内容

- ・第1部 被災者支援のために知っておきたいこと
- ・第2部 セルフケアの大切さ
- ・第3部 シェアリング・ワーク

参加者同士で、今感じていること(ボランティアの参加意義や不安、この講座に参加して学んだことなど)を語り合う。

あなたの本が社会貢献活動に役立ちます

本を集めませんか？

キッズドアでは、信頼資本財団様との共感助成の一環として、本を回収・換金し、教育や災害復興、環境などの分野で社会を変える活動をするNPOに助成をする『ありがとう本』プロジェクトを開始しました。大切に読んだ本を段ボールに詰めて、申込書と一緒に送ってください。ご希望の支援先にキッズドアをチェックしていたら、当団体の活動に助成されます。

詳細はこちら

●「ありがとう本」ポータルサイト
<http://www.facebook.com/arigatobon.jp>



ありがとう本

星に願いを—東北の子どもたちにたくさんの笑顔を

寄付つき七夕クッキー発売

1個につき200円を
東北被災地に寄付



税込込み525円
(クッキー3枚、短冊2枚)

キッズドアの高校生プロジェクト [キッズウィンドウ] では、オリジナルクッキーを企画、発売。都内百貨店で高校生メンバーによる店頭プロモーションも実施しました。売上の一部は被災した子どもを支援する活動に寄付いたします。

開催しました【終了報告】

震災関連セミナー、シンポジウム

() 内は開催日です。

■ボランティア向け 被災者支援ボランティアのためのメンタルケアセミナー [ベーシック]

(4/14、16、22、28、5/10、24、27、29)

4月に「被災者支援ボランティアのためのメンタルケアセミナー」を開催し、たくさんの方が参加いただきました。好評のため、5月も引き続き、東日本大震災でのボランティアをお考えの方のためのメンタルケアセミナーを開催しました。

●内容：①被災者との関わり方、②ボランティアとしてできること、③ボランティアに生じる心の変化

毎回多くの方にご参加いただき、無事全回を終了しました。

■小児科医による、被災した子どもの心の理解と対応講座 (5/15)

被災地で活動されている小児科医の吉岡春菜先生を講師にお招きし、被災した子どもの心の移り変わり、遊びを通じたストレス解消法、子どもの心のアセスメントについての講座を実施しました。

■ボランティア向け 被災者支援ボランティア経験者のためのメンタルケア・ワークショップ (5/22、31)

ご自身が体験されたこと、感じたことを、経験者同士で共有しながら、自分の心と向き合い、支援者として次の支援につなげていくためのワークショップを実施しました。

■被災後のメンタルケアシンポジウム (6/5)

日本財団ビルにて、「被災後の子どもの心のケア」に焦点を当て、医療、福祉、教育の専門的アプローチから具体策を考えるシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムの第一部では、「大震災の後遺症を減らすための対応」というテーマの下、児童青年期精神科医の杉山登志郎氏に基調講演をして頂きました。この基調講演では、日本であまり語られていない、震災後のトラウマに関する対応策、大震災の後遺症を減らすための対応について語っていただきました。第二部では、杉山登志郎氏、NPO 法人ジャパンハート・小児科医の吉岡春菜氏、東京社会福祉士会理事・災害対策本部本部長代理の竹村睦子氏、キッズドア理事長の渡辺由美子氏の4名によるパネルディスカッションを行いました。このパネルディスカッションでは、保護者・その他関係者が、子どもたちの言動から心のサインを読み取り、連携しながら、どのように子どもたちの心をケアすべきか、具体的な知識や情報を共有しました。

■被災した子どもの心のケア講座 (6/19)

震災の恐怖・環境の変化・将来の不安など、大きなストレスを抱えた子どもの心を上手に受け止め、よりよいケアにつなげる必要があります。以下、「遊びを使った具体的な関わり方」に焦点をあてた実践的な講座を実施しました。

1. 被災した子どもによくみられる反応について、2. 子どもの気持ちの受け止め方、3. 遊びを通してのかわり方—具体的なロールプレー

<http://www.kidsdoor.net/>



Kids' DOOR キッズドア通信

特別号

2011.6

日本の子どもをもっと元気に！をミッションとし、子どもと親を対象とした体験活動や教育支援活動を行っています。特に、親の貧困が教育格差となり、それが学力格差、ひいては子ども世代への貧困につながる現在、企業、行政、NPO団体、学校、地域などと連携し、すべての子どもたちが十分な教育のチャンスを得られる社会の実現を目指しています。

編集・発行/特定非営利活動法人キッズドア 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14日本橋Kビル4階 TEL:03-5201-3899 FAX:03-5201-3712

被災地での活動を、特別号としてお届けします



キッズドア東北本部

東北地域での子どもの学習支援事業を展開するために、仙台市内に拠点を設けました。

住所 〒980-0804

宮城県仙台市青葉区大町 2-6-27

岡元ビル7階 プラスコおおまち内

電話番号 080-3341-3336 (法人契約の携帯)

FAX 03-5201-3712 (東京本部にて受け取ります)

E-MAIL tohoku@kidsdoor.net

子どもたちの学習環境の復興を継続的に支える「キッズドア復興 NET」を開設しました。

キッズドア 東北復興応援サイト
KIDS DOOR 復興 NET

<http://kidsdoor-fukko.net>

ご支援ありがとうございます

寄贈 キリングroup 労協東関東 様より

パソコン、プリンター、スキャナー、腕章、名札を寄贈いただきました。これらの寄贈品は、都内避難所の学習支援(赤プリ学習室)、都内高校進学支援 [タグゼミ]、東北の学習支援プロジェクトで使わせていただきます。

寄付 法政大学法学部教授会 様より

寄付金 20万円をいただきました。この寄付金は、震災関連の都内避難所や東北での学習支援プロジェクトで使わせていただきます。

助成 日本財団 様より

日本財団による震災復興プロジェクト「ROAD プロジェクト」の助成金をいただきました。この助成金は以下の通りです。

- ・都内避難所学習支援：80万円
- ・東北地方被災地学習支援：200万円
- ・震災関連シンポジウム、研修開催：100万円

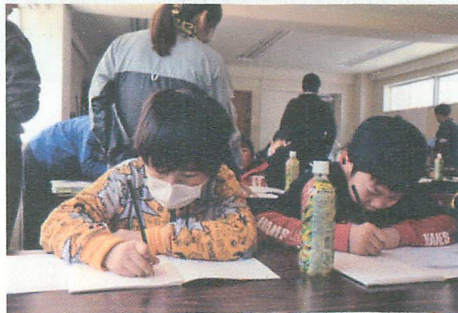
《宮城県南三陸町を訪ねて》 あおぞら教室～キッズ・キャンパス

キッズドアでは、4・5月のそれぞれ3日間、東日本大震災で被害が甚大だった宮城県南三陸町戸倉地区に赴き、現地の学校清掃、遊び、学習、物流搬入の支援を行いました。当地区は津波により壊滅的被害を受け、多くの被災者が避難所での生活を余儀なくされています。今回赴いた戸倉小学校では、津波の影響により、3階建ての校舎の骨組みしか残らないほどの被害を受け、戸倉中学校では一階部分が浸水しており、子どもたちが学校生活に戻るためには長い時間がかかる状況となっていました。



戸倉小学校を清掃するボランティアスタッフ

のべ66名のボランティアスタッフが参加した初回の訪問である4/15-17日の3日間のうち、初日は宮城県南三陸町戸倉地区にて学校清掃を行い、2・3日目は宮城県南三陸町戸倉地区指定避難所「宮城県志津川 自然の家」にて「あおぞら教室～キッズ・キャンパス」を実施しました。



国語、算数などに取り組みました

あおぞら教室	
9:00-9:30	ホームルーム
9:40-10:20	体育1
10:30-11:10	体育2
11:10-12:20	ランチ
12:30-13:10	英語 ABC
13:20-14:00	算数 2x3 5x3
14:10-14:50	音楽 歌
15:00-15:40	ホームルーム

あおぞら教室の時間割

「あおぞら教室～キッズ・キャンパス」では、校舎が倒壊し学校へ通えない子どもたちに学習の機会を提供するため、遊び・学習支援を行いました。ここでは幼児から高校生までの児童・生徒のべ40名を対象に、体操、ドッジボール、大縄跳びなどの体育や、英語、数学等の教科科目の指導を行いました。未就学児には、工作や絵本の読み聞かせを行いました。避難生活を送っていた子どもたちが学校に通うという「日常感」を取り戻せるよう、時間割の提示、出欠確認、授業開始・終了の号令、ホームルームを取り入れる等の工夫をしました。また、未就学児も工作などを通じて学べるように、「ぶんぶんゴマ」などの工作セットを用意した「自由室」を設置し、学習の機会をより身近に感じてもらえるよう心がけました。



みんなでドッジボール

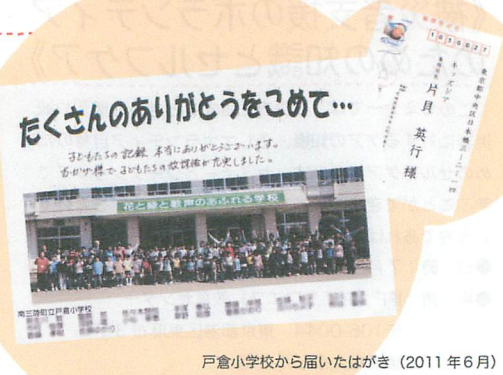
5月は、2度（5月16・17日、31日の3日間）訪問しました。宮城県南三陸町戸倉地区の避難所、物流拠点にて、学習・遊び、物流支援を行いました。参加したのべ44名のボランティアスタッフは、それぞれ遊び・学習支援チームと、物流支援チームの二つに分かれて活動を行いました。

学習支援チームでは、4月に実施した「あおぞら教室」の縁から、戸倉小学校で遊びと宿題のサポートを行いました。津波の被害を受けて元の学校が使えない戸倉地区の子どもたちは、隣町の登米市旧善王寺小学校の校舎を「南三陸町立戸倉小学校・中学校」として5月10日より新学期をスタートさせました。初日は、ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) さんが行う「チャイルド・フリー・スペース (CFS)」に参加させていただき、宿題のサポートやスポーツ、工作を行いました。2日目は、学校の授業を終えて帰ってきた子どもたちを対象に、宿題、教科学習、スポーツ、工作などを行いました。ボランティアメンバーは、自習支援と遊びを通じて「ナナメの関係」を築きながら子どもたちと接しました。特に、ブランコは、隣に座ってゆっくり話を聞けるので、子どもから相談を持ちかけられる場所になっていました。（そのため私たちは、「相談室」と言っていました。）



みんなで大縄跳び

物流支援チームでは、2日間にわたり、「青空市」と呼ばれる仮設住宅に住む方々への物資提供を行うための物資仕分け、搬入出を行いました。



戸倉小学校から届いたはがき（2011年6月）

避難している子どものために

《東京都内の避難所》

キッズドアでは、震災後に都内へ避難された被災児童・生徒を対象、学習支援やイベントを実施しました。

ー東京ビックサイト（4月）

都内避難所の一つである東京ビックサイトにて学習ルームを設置し、東北地方から避難して来た小学生から高校生までの児童・生徒を対象に、学生ボランティアが学習指導を行いました。

ーBumB 東京スポーツ文化館

GW 期間中の5月3日と5月7日、BumB 東京スポーツ文化館の主催する避難児童・生徒対象の東京見学ツアーに、キッズドアのボランティアが引率者として参加しました。3日はお台場、7日は東京スカイツリー見学へ行っていました。当日は約20名の児童・生徒が参加しました。



個性あふれる素敵な作品ができました！

みんな集中して作り込んでいました